

# 雑司が谷案内処



郷土玩具や雑司が谷関連資料の  
展示風景(1階)

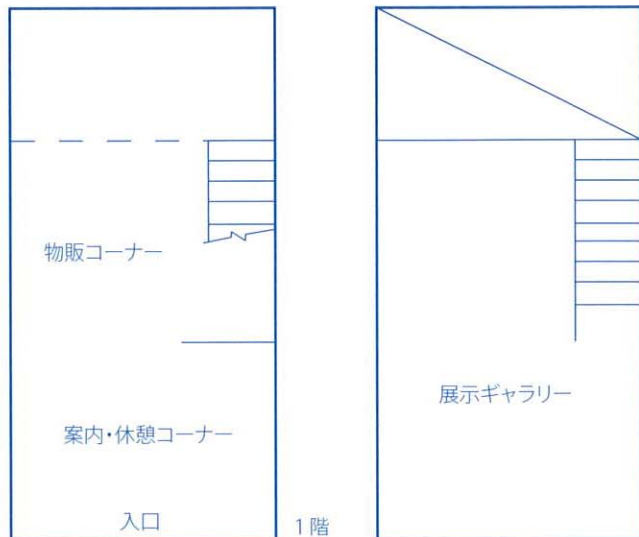


2階 ギャラリーの展示風景

## 施設の概要

- 所在地: 豊島区雑司が谷3丁目19番5号
- 施設名称: 「雑司が谷案内処」
- 構造: 木造2階建て
- 施設規模: 【1階】25.9㎡ 3.6m×7.2m

【2階】25.9㎡ 3.6m×7.2m (他にバルコニー有)



案内処のある  
並木ハウスアネックスと  
鬼子母神参道・けやき並木



歌川広重  
《江戸高名会亭尽 雑司ヶ谷之図》  
郷土資料館所蔵

## 開館日・開館時間

- 休館日: 毎週木曜日(ただし祝日の場合開館)、  
年末 ※年始は開館予定
- 開館時間: 10:30~16:30

## 案内処はこんなところ

- 雑司が谷のおすすめスポットをご案内
- 地域のイベント・商店街などの情報提供
- 郷土玩具ほか、雑司が谷グッズなどの展示・販売
- 2階ギャラリーには雑司が谷ゆかりの作品などを展示  
このまちを訪れる方や、地元の方々に、雑司が谷の魅力を  
再発見して頂けるような催しを展開していきます。

## 雑司が谷案内処

〒171-0032 豊島区雑司が谷3丁目19番5号  
最寄り駅: 地下鉄副都心線「雑司が谷」1番出口  
／都電荒川線「鬼子母神前」

TEL/FAX: 03-6912-5026

E-mail: zoushigaya-a@citrus.ocn.ne.jp

ホームページ <http://www.toshima-mirai.jp/zoshigaya/>

管理運営: (財)としま未来文化財団 <http://www.toshima-mirai.jp/>

13.07.31.10000

# 雑司が谷案内処

豊島区雑司が谷情報ステーション





# 雑司が谷 案内マップ

## 御会式(おえしき)

もともとは日蓮上人の忌日の法会。江戸時代から伝わる年中行事で、鬼子母神では毎年10月16日～18日に「鬼子母神御会式」を行っており、たくさんの方が供養のお練りに参加しています。「威光山」と書かれた高張り提灯を先頭に、枝垂れ桜様の万灯が何台も練り歩く、雑司が谷地域の秋の風物詩です。



郷土資料館  
(勤労福祉会館7F)



自由学園明日館

## 法明寺鬼子母神堂

永禄4(1561)年、柳下若狭守の家臣が清土(現在の文京区目白台)の地にてご尊像を掘り出して井戸で清めた後、東陽坊というお寺に納めました。その後の天正6(1578)年、「稲荷の森」といわれた当地に、村の人々が堂宇を建てお祀りしたのが、雑司が谷鬼子母神の始まりといわれています。

境内には樹齢およそ700年、高さ30m超の公孫樹(いちょう)の巨木がそびえ立ち、「子育てイチョウ」と呼ばれ、都の天然記念物に指定されています。鬼子母神は安産・子育ての神様として広く信仰の対象となっていますが、その来歴には深いわれがあります。

## 雑司が谷の郷土玩具 すすきみみずく



すすきの穂でつくられた、みみずくの人形。母の病気が治るようにと鬼子母神へ毎日お参りしていた娘への「お告げ」から誕生したという逸話があります。お告げに従った娘は作ったみみずくを売り、母のための薬を買うことが出来たことから、商売繁盛の縁起物としても知られています。

## 雑司ヶ谷霊園

夏目漱石、サトウハチローなど、明治以降の作家、文化人も多く眠る霊園。かつて徳川の御料地であった土地に、明治7(1874)年、雑司ヶ谷墓地として開設されました。

## 雑司が谷旧宣教師館

アメリカ人宣教師のマッカーレブが、明治40(1907)年に自らの居宅として建て、帰国するまでの34年間生活した洋館。地域住民の保存運動により文化財として認められ、現在、区内に現存するもっとも古い近代木造洋風建築です。布教のみならず、幼児教育にも取り組んだマッカーレブ。この館では「赤い鳥」「子供之友」のような児童文芸雑誌などを展示しています。  
※月曜、第3日曜日休館

副都心近隣とは思えない、落ち着いた佇まい。雑司が谷のまちがもつ歴史と文化の薫りは、住む人や訪れる人にとって、癒しと憩いの空間を形成しています。

雑司が谷は法明寺とともに発展してきたまちです。江戸時代、寛文4(1664)年に現存の鬼子母神堂が建立されたことにより、参詣者が増え、それにつれて参道には茶屋や土産物を売る店が立ち並ぶようになりました。

また、江戸から明治にかけての「雑司が谷」地域は、現在の西池袋の一角から文京区の音羽までの広がりをもっており、このまちで多くの文人も暮らしました。

